

飲食戯言

酒なくて何の己が櫻かな

酒は憂いの玉箒

五臓六腑に沁みわたる

酒は天の美祿ナリ

(たまはばき)

葷酒 山門に入るを許さずトモ

お神酒上がらぬ 神はない

駆けつけ 三杯

里腹三日

酒三杯は身の薬

いやいや三杯

酒蔵あれども 餅蔵なし

下戸の建てた 蔵はない

酒屋へ三里 豆腐屋へ二里

渴へては 酒を扱ばず

河豚汁や 鯛もあるのに無分別

嘉肴有りと 雖も 吞まずんば 其の旨きを知らず

(喰らはずんば)

好物に 崇りなしトモ

下手な大工で のみつぶし

酒は飲むとも 飲まるるな

酒は 本心をあらわすト

酒は百薬の長

酒は百毒の長

自慢高慢酒の爛

親の意見と冷や酒は 後になるほど効いてくる

即時 一杯の酒

憂いも辛いも 呑んでの上

飲食男女は 人の大欲

恋の病と冷や酒は 醒めた上での御分別

(食うて)

人には添うて見よ 馬には乗って見よ

酒なくて 何の己が櫻かな

